## 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩 大町高等学校

## 大町高校山岳部の顧問となりました

年度末の人事異動で、大町高校へ転勤となった。自宅からはまた少し遠ざかったが、信州の山のメッカ、山岳都市を標榜する大町市の学校ゆえ、山はまた近くなった。何せ大町高校は全校登山が今なお行われている全国はもちろん、長野県でも稀な学校である。全校生徒が一泊もしくは二泊で三年間に三回北アルプスに登る学校なのだ。学校要覧や生徒手帳には「校歌」に引き続き「山岳部歌」が掲載され、応援練習でも校歌の次に覚えさせられるのが山岳部歌。応援歌より先んじて、山岳部歌の歌唱指導が行われる。これまで、大町高校の山岳部が山頂で「山岳部歌」を歌うことは承知していたが、全校生徒が歌える伝統があるとは・・・赴任直後にこれを目にしたとき、さすがにここまでとは思わずびっくりした。そんなわけで、いうまでもないことだが、学校の中でも山岳部とか山とかのステータスは高い。

そんな山懐に抱かれた伝統ある山岳部は、今年新たに入部した2年生1名と1年生を3名迎え、合計9名(男子7、女子2)の部員で発足した。新入部員を迎えての歓迎会は4月28日。学校の庭にテントを張って、定番の焼き肉。遅い桜がまだ十分見ごろで、花見をしながらの乙な歓迎会。・・・と思いきや、生徒諸君は花より団子。桜はそっちのけで、昨年までの主顧問の矢口先生が手ずから焼いてくださった、焼き肉に舌鼓。・・・翌日は、鷹狩山への訓練登山と運動公園の人工岩場でクライミングをして、新入部員と新入顧問の小生は大いに歓迎してもらった。鷹狩山山頂では今年度はじめての「山岳部歌」が覚えたばかりの一年生によって歌われた。

こんな風に始まった大町高での山岳部顧問としての活動。しかし、転勤後の新しい学校になかなか慣れずに、かわらばんを2か月という長期にわたって配信できなかった。何人かの方から、「このごろかわらばんが来ないけど」とメールをいただいた。「楽しみにしてくれているんだ!」とうれしい反面、プレッシャーも感じながら、転勤のご挨拶も兼ねて久々にかわらばんを書いている次第。

何もなければ、小生の正規の教諭人生も残り6年。引き続き山岳部の指導をいたしますので、いろいろな場面でお世話になることもあるかと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

## 山岳総合センター、針の木高校生研修会

5月10、11に行われた山岳総合センターの高校登山研修会は、参加者の数こそ30名を越え盛況だったが、参加した学校は大町北、池田工業、松本県ヶ丘、大町の4校にとどまり、残念だった。内容は、雪上経験のある上級レベルの生徒は針ノ木峠まで登り、初めて参加した新入生は大沢小屋付近で徹底的に雪上歩行技術を指導するというもので、生徒、顧問のレベルに応じた中身のある研修だった。上級生には、長い距離を歩くことで技能が向上した上に、この時期の針ノ木峠まで登れたことが大きな自信になり、1年生にとっては、初めての雪上歩行や雪上生活技術を身に付けることができるとともに、来年

に向けての目標ができた。この研修会の翌週の17日、18日に1年生も含む部員を県大会の下見に連れて行ったが、蝶ヶ岳からの下り急斜面の堅い雪にも腰が引けたり、怯んだりすることがなかった。

内容的には充実した研修会だけにいつも思うのだが、もっと多くの高校に参加してほしかった。南信地区はこの時期に地区大会を行っているという実情の中、物理的に参加できないことは理解できるが、今年の県大会へのエントリーが180名を越えるという中、4校30名しかこの有効な研修会に参加していないというのはなんとも残念で仕方がない。長野県の山岳部員が5月の残雪期という最も山の美しい魅力的な時期に、それを謳歌できる機会をみすみす逃しているのだから。いつも言っているように、自分一人ではこの時期に生徒を針ノ木峠まで連れて行く自信のない顧問でも安心して、センターの講師陣に生徒を託して生徒にはすばらしい体験を味あわせることができるうえ、顧問は顧問班の中で、引率に必要な技術を研修することができるという一石二鳥の研修会。

高体連の部報1号にも、「県山岳総合センター主催『長野県高等学校登山研修会』が 5/10~11 に開催されます。高校登山部としての活動の基本を身につけるための研修として参加されることをお勧めします。」と謳われている。特に今年の県大会は蝶ヶ岳で行われるわけで、間違いなく例年以上の雪上歩行が出てくる。針ノ木峠で、槍に歓声をあげる生徒を見ながら、長野県高校山岳部の行く末について、またしても少し憂えた。

実はその前の晩、この参加数について、センターの企画担当の傘木さんからは、高校 山岳部のニーズはどこにあるのかとしばし激論をしたのである。お互いに思うところは 共通するのだが、なんとかしなければ高校山岳部の技術レベルは、どんどん下がってい くことに僕は極めて強い危機感をもっている。一方で山岳部の門をたたく生徒が増えつ つある今、今更繰り返すまでもないが、雪上でのこの研修会の果たす役割は決して小さ くないと思う。顧問力が問われているように思う。

## 県大会下見にはいる学校は、多い残雪にご注意を

今年の高体連の長野県大会は蝶ヶ岳を会場に行われる。17、18日は大町高の生徒たちと、22、23日は高体連役員と下見に入った。2回入っての感想だが、北アルプスの今年の残雪は例年とは残り方が違う。後立山などの北部では例年よりかなり少ないのに対し、蝶ヶ岳など南部では逆に多いのだ。恐らく今冬2月の大雪の余波が今に及んでいるのではと思われる。その雪が、晴れた日の翌日の早朝などは上部は相当堅くなっている。

大町高校は今週末もう一度下見に入る計画であるが、他にも下見をされる学校も多いかと思う。現在1800mくらいから上部は、稜線を除いてほぼべったり雪が着いており、ルートも見づらくなっている上、緩んで来れば踏み抜きにも注意せねばならず、慣れていない学校は下見に入る際には十分注意が必要だ。下界では今日などは真夏を思わせるような暑さだったが、先週の高体連の下見時には妖精の池より上部では雪が降っており、新雪が5cm程度は積もっていた。昨日高体連より、各校宛部報の2号が届いたかと思うが、各校とも下見にはいる場合は、足回りの準備やルートファインディングを怠らずにくれぐれも安全な登山をと願う。それはともかく、今年の県大会。180名余のエントリーがあったということだ。僕が専門委員長をしていた1990年代の終わりには、200名の攻防があったが、それに迫る勢いだ。高校生の数も減っている中でのこの数。大事に育てるために顧問の役割は重大だ。